

# イウカさんの OLÁ, HIKONE!



(olá[オラ]=ポルトガル語で「こんにちは」)

## 第11回 ブラジルのことわざ

彦根の皆さん、こんにちは!

ワールドカップでブラジルが優勝したことは、私にとってとてもうれしいことです。でも、それ以上にうれしかったのは、日本と韓国の人たちが、みんなサッカーを思い切り楽しんだことです。「アジアで初めてのワールドカップ」は、ブラジル出身の私には違和感があったけど、今は心からよかったと思っています。

### ◆みんな違う「当たり前」

母国ブラジルを離れて暮らしている私は、ブラジルで「当たり前」でも、日本ではそうでないことにいろいろ気づきます。皆さんも、毎日の生活で外国との違いに気づくことがあるのではないのでしょうか。

私の国ブラジルは、100を超える国から来た人たちによってつくられた国です。ブラジルは世界のさまざまな国の人たちが持ち込んださまざまな文化、習慣の影響を受けました。そして現在は、みんながブラジル人として生活しています。こんなルーツを持つ国ですから、みんなが仲良く生活していくためには、自分の考え方、感じ方を「当たり前」と思わないようにするのは、大事なことです。



現在、彦根では世界のいろいろな国から来た外国人が生活していて、その数は1,600人を超えます。日本とは異なった社会制度、友達とのつきあい方など、日本についてわからないことがたくさんあるはず。話し合うことを大切にして、自分たちのすばらしさと相手のすばらしさを見出し、尊重することができれば、彦根はもっと良いまちになると思います。

### ◆ブラジルのことわざと日本のことわざ

さて、今回はブラジルのことわざを紹介したいと思います。

ケン カンタ セウス マリス エスパンタ  
“ Quem canta, seus males espanta ”

直訳すると、「歌う人は、災いを遠ざける」。日本のことわざでは、「笑う門には福来たる」が近いでしょうか。

ブラジルのまちでは、道を歩く人たちがよく歌を歌っています。だれかとすれ違うたびに違う歌が聞こえるほどです。また、ブラジルの男性は、大人も子どもも、美しい女

性を見かけると、歌を歌って、きれいな女性に出会ってうれしいと思う気持ちを表現します。日本でこんな人がいれば、すこし変に思われてしまうかもしれませんね。でも、ブラジルの人たちは、こういう風景を見ると、“ Quem canta, seus males espanta ” と思って、いっしょに楽しい気持ちになるのです。

ア ウニアオ ファス ア フォルサ  
“ A união faz a força ”

直訳すると、「共同は力を実現する」。日本のことわざでは、「三人寄れば文殊の知恵」が近いでしょうか。

ブラジルはいろいろな国から人が集まってできた国で、日本のように古くからの共同体や、仲間意識のようなものはありません。ですから、みんなで何かをするときには、“ A união faz a força ” と声をかけあって、お互いに協力する雰囲気をつくるのです。

ゴスト ナウ セ ディスクウチ  
“ Gosto não se discute ”

日本語にすると、「人の好みについては討論しない」。日本のことわざでは、「蓼食う虫も好きずき」が似た意味でしょう。

ブラジルは世界のさまざまな国からやってきた人々でできた国ですから、「これが常識です」と言えることは多くありません。そのため、いろんなところで意見が食い違うことになりませんが、中でも「サッカー・政治・宗教」の三つのテーマについては、レジャータイムには討論をしないようにします。なぜなら、どこまで話しても意見が合わず、最後にはけんかになって、みんなで楽しむ雰囲気でなくなってしまうからです。そのため、例えばバーベキューをしているときにこの話題が出ると、だれかが “ Gosto não se discute ” と言って、話題を変えるようにうながします。

ケン カラ コンセンテ  
“ Quem cala consente ”

日本語にすると、「発言しない人は賛成している」。たとえ本心では反対でも、意見を言わない限りは賛成している、という意味です。

ブラジルの人は、初めて会う人に対しても「自分はこう思う」ということをはっきり言います。その時に大事なのは、笑顔や視線などで、相手を尊重していることをそれとなく伝えることです。仮に反対の意見を言ったとしても、相手を尊敬する気持ちに変わりはないはず。

知らない人と話すのは少し勇気がいる冒険です。けれども、意見を言い合ってお互いをもっと知ることができれば、きっと気づかなかった相手のすばらしさに出会えると思います。

いかがですか。こうして比べてみると、同じような意味のことわざでも、日本とブラジルでは少し違う使われ方をすることもあろう。ことわざを通して、その国の文化や考え方が分かるかもしれませんね。皆さんの好きなことわざやおもしろい警句があれば、ぜひ教えてください!

アテオ メス ケ ベン  
Ate'o mes que vem! また来月に会いましょう!

(「ポルトガル語・最初の一步」はお休みします。)

(彦根市国際交流員 上甲イウカ)